

2 目標達成計画

事業所名 千寿園ケアホーム
作成日 平成29年10月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	現在も取り組んでいるが『利用者』と職員が共に過ごし支え合う』という関係性が以前に比べ希薄になっているように思える。『ご利用者が介助される立場』との一方方向に置かれることがないよう、職員の意識改革と、助け合いの関係作りの再構築が必要。	職員・ご利用者で『介助する側』『される側』と区別をするのではなく、職員全員が『事業所はご利用者にとっての家である』『職員はそこで生活を共にする家族』『ご利用者は尊重すべき存在』との思いをもって、共に協力し、ご利用者に対して常に感謝の気持ちを持ち、それを伝えていけることが当たり前となるような生活を築けることを目標とした。	事業所（グループホーム）の在り方を再度全職員で確認する。『我々は生活のお手伝いさせていたがっている』そしてまた『ご利用者に支えていただいている』ことを再度強く認識して、日常的に「ありがとう」と伝え合える関係性を構築していく。朝礼の場等で話頭としながらいつも心にとめ取り組んでいけるよう改善していきたい。	1年間
2	36	『ご利用者の尊重』『利用者中心ケア』についてはこれまでも大切に捉え、日常的に話し合い指導を行っているが、ご利用者・ご家族への言葉掛け・言葉遣い・対応の仕方やプライバシーに関する管理・心配りについて、まだまだ努力しなければならぬ面が多くある。	ご利用者・ご家族を尊重し、言葉掛けの仕方や言葉遣い・対応の仕方・プライバシーへの配慮・マナーアップ等、周知徹底し、よりよく改善していけるように努めたい。職員それぞれが自分の課題として捉え、自己を振り返り、改善していけるようにしたい。ご利用者・ご家族にとって、気持ちの良い言葉かけや対応はどのようなものなのか、常に相手の立場に立つことを忘れずに、よりよい言葉かけ・接遇を実践していけるように全職員で取り組んでいきたい。	1つ1つの声掛け・接遇の仕方を、相手の立場に立って意識して行えるように訓練していく。ご利用者を敬い『介助する』ではなく『させていただく』の意識を全職員で再確認する。他職員の誤った言葉かけや対応について見過ごさない体制作りを強化し、職員同士でも気付きを伝え合い改善し合える関係性を大切にしていく。常にご利用者を中心としてご利用者を敬い大切にできる環境作りを、事業所内で共有し徹底できるように努めていく。	1年間
3	37	日常生活の中で、認知症で自分の思いや希望・考え、自己決定の表出の難しいご利用者に対して、思いの汲み取りやそのための努力、ご本人の思いと自己決定の尊重等、配慮や工夫がまだまだ不十分と思われる。	全職員が、ご利用者の思いや希望を尊重し、うまく言葉の表出できない方に対しても、コミュニケーションの工夫等で、思いの汲み取りや予測、気づきを大切にしていけるように研鑽していく必要がある。思うように気持ちを表出することのできない認知症の方々の状態や日常生活の不便さ・困難さ等、その方の身になって考え、できる限りご利用者の喜びや安全・安心・快楽に向けた支援を提供していけるように心がけていきたい。	意思表出が困難な方であっても、毎更衣時の衣類選択等、できるだけご本人の好みのものを選択していただけるようにさり気ないお声掛けやお手伝いを行ったり、『寝たい』『起きたい』『行きたい』や、臥床時の体の位置・安楽の確認等、その都度ご本人へお声掛け・意思確認、その時々思いや葛思を尊重しながら手伝いを行う等、当たり前のことを大切に継続されるように今後も支援を行っていく。寝具や衣類・身辺の状態、身だしなみやバットのずれ・体の不快感がないか等、ご利用者がうまく訴えが難しい場合でも、ご本人の安楽や嫌悪の状況等の把握・確認に徹底して努めていくことを大切にする。介助後には必ずご本人への声掛け確認と状態の確認を行うことを常とし、他職員からでも気づきがあれば互いに声を掛け合い、互いに改善していけるように取り組む。自分の身に置き換え自己決定の大切さを再認識し、日常様々な場面でのご利用者への説明・確認・同意の上、お手伝いさせていただく体制を全職員で徹底していく。	1年間

4	33	<p>当日のリーダー職員を中心として日常的に医師・看護職員と連絡を取り指導を受けたり研修や書籍等で学が等し、事業所として医療・看護知識の習得に努めているが、今後予測される重度化への対応を含め、医療に関する知識・技術・環境・その他の面において、更に学びが必要である。</p>	<p>医師・看護職員からの指導や研修等を受け、ご利用者の病気についての知識・理解や、全職員の医療・看護における知識・技術習得を図り、重度化や終末期における対応についても、ご家族・医療関係者とよく相談・連携をとりながら、『本人』『ご家族』に安心していただける事業所（体制）作りを努めていきたい。</p>	<p>参考本や勉強会を通じ、高齢者の病気について全職員で再度学習し確認を行う。医師・看護職員に相談し、当事業所で今後必要となる知識・技術等について、勉強会を通じ指導をもらう。医療や看護、看護取りに関する外部研修参加を推進する。重度化された場合の事業所対応について、事前に院長・経営者と話し合いをもち、共通認識をもって、一層皆様の安全・安心な環境整備に努めていく。</p>	1年間
---	----	--	--	---	-----

5	21	<p>重度の認知症の方等、コミュニケーションが困難で孤立しがちなご利用者に対し、他利用者の輪に自然と入れるような支援の工夫がまだまだ足りていないように感じる。</p>	<p>ご利用者同士、気の合う方、そうでない方もいっしょにやと思うが、共同生活を送る中で、全ご利用者が孤立されるようなことがなく、互いに認め合い、ねぎらい合い、助け合っているような、温かな関係を築いていけるように、全職員で、気遣いや心配り・配慮に気を付けていきたい。</p>	<p>聴覚・失語症や、認知症の方の障害や心理面の理解に努める。障害のあるご利用者であっても孤立されてしまうことなく、ご利用者同士がうまく関係性を築いていただくことができるよう、職員で気配り・声かけ・心配りを行い、コミュニケーションを積極的にお手伝いしていく。（ご利用者の紹介・聴覚の補助・挨拶の支援・その方の思いを職員で代弁する等）各ご利用者の得意事を理解し披露していただく等、ご利用者がそれぞれに活躍できる場面や、お互いに支え合えるような場面作りを大切に考えお手伝いしていきたい。</p>	1年間
6	51	<p>毎日清掃の時間をもち全館清掃を行っているが、クンス内の整理や、ベッドまわり・ベッド下・棚の上等、時々清掃の不十分なことがある。</p>	<p>全館の消毒・清掃や、ご利用者の各居室を綺麗に整えて、不衛生にならず、綺麗な環境でより気持ちよく過ごしていただけるように改善したい。</p>	<p>清掃時間の美化強化と、日常的に職員間でよく気にかけて清掃・消毒・整理整頓に心がけていくことを気を付けていく。ご利用者支援の中でなかなか思うように時間をもてないことがあるが、ご本人・ご家族の気持ちに立って、ご利用者の大切な生活空間・『おうち』であることを一層意識し、また感染症予防の観点でも、清潔を保てるように心掛けていきたい。また日頃の掃除時間では掃除できない箇所については、定期的に業者点検・清掃を受ける等、十分なメンテナンスが届くよう整備を行っていく。</p>	1年間